



本当の中国が見えてくる

日本人妻の歯ざしり ～王さんは週末婚～

半年前から募集していた工場の従業員がようやく決まり、今月から出勤している。

王さん、47歳の女性だ。少々ふくよかな体形が、おっとりした柔らかい雰囲気により高めている、といった感じの人だ。私のいる食品サンプル工場は、もともと4人だったのが半年前に一人減り、他の3人は、担当外の仕事が増え不満がたまっていったので、喜んで彼女を迎えた。

王さんがうちに来て一か月、徐々に彼女のことが分かってきた。彼女は40歳で結婚して7年、高齢出産には不安があったので子どもはあきらめたそう。今年初めに、車の運転免許を取り、念願の車を買った。運転は好きで、高速道路も怖くないという。王さんのご主人は、彼女より11歳年上のクリスチャン。18歳の時に日本へ行き、その後30年間ずっと日本で働いていたらしい。その経験を買われ、今は日本と取引のある会社で働いている。日本での暮らしが長かったせいか、彼の動作や考え方は中国人らしくなく、外国人みたいだと、彼女は言う。

知り合った頃の話聞いた。「彼は交差点で横断歩道を渡るとき、赤信号は絶対渡らないの！車が一台も来てないのによ！」「信号は守らないといけない」と言うの！車が来ないのに、守る意味ないじゃないの！腹が立ったわ！」。車の来ない交差点で信号を守ると、同行者の怒りを買うことがあると分かった。彼は、今ではちょっと融通が利くようになったぞうだ。

彼女の話に、見かけとは違う意外な一面も見え、私は「へー！そうなの！？」しか言えない。

そのなかで、ちょっとびっくりしたのは、彼らが「週末婚」だということだ。中国語にも「週末夫妻」なる言葉があるが、そのほとんどは「地方から来た労働者が、週末は我が家に帰って過ごす」というケースを指すらしい。王さんのように、同じ都市に、それも近い距離に住んでいながら週

末婚という夫婦はあまりいないと思われる。

だが、これには彼らなりの事情があった。二人とも既に一方の親がなく、高齢の親に一人暮らしをさせるわけにはいかなかったのだ。一時は両方の親も入れて4人で暮らすことも考えたが、夫の母、彼女の父と一緒に住まわせるのも変な話だし、うまくいくとも思えず、結果、普段はそれぞれが親の家で暮らし、週末だけ、どちらかの家に行き過すことにしたらしい。

「私たちは二人とも独身が長くて、それぞれ自分の生活スタイルがあるから、今の暮らし方がいいと思ってるの。譲り合うのもストレスだし、毎日顔を合わせたら、きっとけんかになるしね」と、現状に肯定的だ。「一緒に暮らせなくて残念ね」とも言えず、「親孝行」というのも違う気がしたが、彼女の割り切った態度に感心した。

王さんが生まれたその年、上海は全国に先駆けて「二人子政策」に入った。先ずは大都市から始まり、後、地方都市へと政策は広がったそう。だから私の同級生はみんな「一人子」と彼女は言う。

今、その世代の親たちが高齢になり、生活に介助が必要な人もできた。中国も晩婚化、非婚化が進んでおり、王さんのケースは今後増えてくると思われる。

「週末婚」は私の周りには例はなく、最初は驚いたが、実際に話を聞けば案外いかもしれないという気になった。本来は、結婚とは二人で新しい家庭を築いていくことだと思いが、離婚率は減るに違いない。

老人ホームや介護施設が充実すればいいのだが、一般市民が安心して親を任せられる環境と費用となれば、まだ時間がかかりそうなのだ。

写真

中国では9月25日は中秋節で祝日、三連休でした。10月1日からは国慶節の7連休があり、国民はみんなこの大型連休を楽しみにしています。

1. 「中秋快樂」（写真／上、中央）

2. 中秋節といえば「月餅」です。甘い月餅は今ではあまり好まれなくなりましたが、贈答品としてはまだまだ健在。この季節、きれいな包装の月餅がスーパーでもネットショップでもたくさん売られます。これは、夫の甥から送られてきた月餅。北京の老舗菓子店のものです。（写真／左上）

3. 社内や取引先にも配ったりするので、他にも2箱。パイ生地や洋菓子のような月餅もあり、餡も小豆、かぼちゃ、山芋、ナッツ...といういろ。

4. 今年も「熟柿」をいただきました。庭に柿の木を植える人は多く、毎年のようにご近所からいただきます。が、ここではほぼ全部が渋柿なので、熟してから食べるんです。去年「柔らかくなったから食べて」と硬い柿をもらい、「硬い方が美味しいのに」と一口食べて後悔。熟柿も美味しいですけれどね。（写真／右上）



profile さねみつ じゅんこ
岡山県出身 上海市在住 家族：夫、犬1匹、猫2匹。
1989年 大学卒業後、教育・福祉関係の仕事に就く。1997年 中国人の夫と結婚。
1998年 夫の赴任で上海に引っ越し、上海済経大学で中国語を学ぶ。
2000年 日本語教師の仕事に就く。
2005年 上海同済大学大学院入学。
2008年 卒業。
2008－2011年 病気治療のため日本に帰国
2011年 上海に戻り、夫の経営する会社の工場勤務 今に至る



⑤



③

5. 血糖値を気にせず食べられる、と言われている果物を買ってみました。「人参果」酸味がなくメロン系の香りがします。ここでは「柚子」と呼ばれます。日本語は「ザボン」

どちらもこの季節の果物で、店頭によく並んでいます。血糖値が上がらないと言われるだけあって、甘みはかすか。水分は十分です。